

2025 年 第 3 回 VLBI 懇談会役員会 議事録

作成: 2025 年 10 月 22 日(水) 佐野栄俊 (岐阜大学)

本議事録は、 2025 年 10 月 22 日(水)の 2025 年第 3 回 VLBI 懇談会役員会の開催前に配布した会議資料に、議論の内容を赤字で追記し、議事録として確定したものです。

1. 本会の開催日時 2025 年 10 月 22 日(水) 21:00–22:30

2. 開催形式 Zoom によるオンライン開催

3. 参加者確認

出席: 佐野, 関戸, 今井, 米倉, 中川, 寺家, 小川, 小林, 小山, 三澤, 新沼, 野原, 松尾
欠席: 青山, 藤澤, 石垣, 赤堀, 土居, 本田, 大木, 岳藤

4. 議題

[1] 今年度 VLBI 懇談会シンポジウムの準備状況 (今井)

- VLBI 懇談会シンポジウムのホームページを作成した。
- 本日 3rd サーキュラーを流して、プログラムも作成完了。座長も決定した。
- ポスターと参加者リストも作成完了。
- 10/31 までに参加者・懇親会受付の締め切りがある。
- 現時点では 100 名程度の申し込みがある(口頭発表は 30 件、ポスター発表は 40 件)。
- 理工学系総合研究棟の教授会をやる部屋を確保。電源も並んでいる。
- Zoom で遠隔対応できるようにハイブリットでできることを期待。
- ポスター発表や懇親会の手配は中川さんにお願いした。
- ポスター賞や口頭講演賞をどうするか審議したい。
- 国立天文台からの 50 万円の支援は、学生の参加者の旅費としている。満額支給は不可なので、各研究室にも一部負担をお願いした。

(小林) 発表しない学生にも旅費は出しているか。

(今井) 講演のタイトルとアブストラクトの詳細を出すということで受け付けているので、発表せずに旅費を出すことはない。

(小林) 学生の賞については例年やっているので、今年も実施してはどうでしょうか。

(今井) 今井さん、寺家さん、小山さん、中川さんの 4 人では審査が厳しいので、役員会の皆さんにもお願いしたい。

(米倉) ネットは使えますか。

(今井) eduroam なので、持っていない人には ID を発行します。

(米倉) 口頭発表の方は、プロジェクターに繋ぐのか、ネットワークに繋いで zoom 共有するのか。

(今井) ネットワーク接続が必須ですので、明日にでもネットワーク ID を発行します。

(米倉) 受賞について奨学金の返還免除になるとか非常にインパクトがあるので、副賞のあるなしにかかわらず、ぜひやってください。

[2] 学生 V 懇の貸切バス補助について (中川/野原)

- 昨年度は「受け継がれる VLBI」のテーマで、非常に反応がよかったです。特にソフトウェアについては継承がうまくいっている様子。
- ハードウェアについても知りたいという意見を持つ学生が多かったです。
- そこで今年は、実際に稼働している装置として VELA 入来を観測したい。
- 人数は 30 名程度、移動方法は「貸切バス」。
- 6-8 人のグループに分け、1 グループずつ上部機器室に登る（装置開発をしている学生と鹿児島大学の学生（VERA に慣れている学生）を配分する）。
- 貸切バスの経費は 78,100 円とのこと。

(小林) 鹿児島大学のスタッフは行くのか。

(野原) まだ話を決めていません。

(寺家) 上部機器室に登る場合はスタッフ必須なはず。鹿児島大で決めて。

(中川) まだ話はしていないが、流石に大人数で行くので、誰かは行かねば。

(小林) 安全管理について注意。上部機器室で物を落としたりしないように。

(寺家) 春の落雷で色々と壊れているので、何を見学するのかを決めておくべき。

(中川) まだ何を見学するかどうかは決めていないが、安全管理と、故障している部分に関して、見学が影響しないかどうか確認してみます。

(今井) スケジュールを見ていますが、組み込まれていますね。

(寺家) スケジュールに組み込まれている。水沢が計画停電の日ですので、入来局の方で注意してやってほしい。

(小林) 意義はあると思う。あとは V 懇に予算はあるかどうか。1 回 OK にすると、今後も補助することができるので、そのあたりについてはどうか。現在の V 懇予算はわかりますか。

(佐野) まだこちらで集計しきれてはいないが、これまでの総会資料に鑑みると、毎年それなりの繰越金はある。今後、集録や会費がどうなるかによっても変わるので、なんともいえない。

(米倉) 国立天文台の申請書の中に入れてはどうか。6 月の中旬が締め切りなので、申請書に盛り込めるように次回からはちょっと早めに動くように。心がけていただけれ

ば、今後も継続的にできる可能性は高まると思います。

(小林) 予算状況はどうか。

(佐野) 昨年度の総会資料の予算に鑑みると、繰越金は1万円増えるかどうかというところ。

(中川) 何人くらいが参加するか、見込みが知りたい。蓋を開けたら10人しかいなかつた場合はもったいない。

(野原) 現在、募集フォームを2個に分けている。最新版の募集フォームでは19人。その前のフォームでは31名が申請しています。

(佐野) 1回目と2回目のフォームはどう違うか。

(野原) 1回目は懇親会行きたい人という感じで曖昧に連絡してしまった。2回目のフォームでは見学について触れ、VLBI懇談会から補助が出ない場合もあるかもしれないことを明記して人を募っている。

(今井) 天の川銀河研究センターに予算を申請していた(旅費補助など)。センターの構成員の方に聞かないと一存では使えない。

(小林) 先ほどの旅費補助には影響しないか。

(今井) 影響しない。ただ、貸切バスは想定していなかった。

(小林) 金額的に行けるか。

(今井) いけると思います。共同研究者を入来に案内するなど。

(小林) それなら今年はそちらでどうか。ただ、開催地の負担になるので、今後は検討しなくてはいけない。

(中川) 鹿児島の中にいて、(共同研究者を入来に案内するという進め方は)さすがに難しい気がする。使途について天の川センターに伺う場合は、月末の会議なので、タイムラインとして間に合わない。

(今井) 使わない場合は、他のことに使う。他のことに使いたいけれど、回してもらっている予算ではある。ひとつの考え方としては、研究会プログラムの一環として実施するというはどうか。

(中川) 今後どこが負担するかを考えると、あまり主催側に負担が行くのは現実的ではないだろう。

(今井) いずれの場合もメール会議になってしまう。センター長に聞くことになる。

(関戸) 鹿児島大学からお金が出ると、VLBI懇談会からの負担は減るのですか。

(今井) 78,000円です。研究会本体で使うお金の全体像がまだ定まっていない。招待講師の旅費がなかった場合、主催者の責任で、お金を取るということで今回天の川センターからもらった。V懇シソポジウムを天の川センターの共催でやるので、お金をくださいというところです。

(関戸) 学生さんは将来の業界を担っているので、出すことには前向き(出しても良いと思っている)。総額がいくらで、学生さんも一部(例えば500円くらい)負担すると

かはどうか。

(野原) 学生がいくら負担できるかも調査済み。学生のほぼ全員が 1,000 円以下の出費でした。ですので、他大学からくる学生さんが 500 円のみ支払うのはどうか。鹿児島大学の学生は班分けなど負担が多いので取らない。

(米倉) 今井さんに対してのコメントです。学生アルバイトについて謝金を出す。鹿児島大学の学生が案内する、ということに対して謝金を出すというはどうか。

(今井) 筋は通る。

(小林) バス代の負担とは話を分けて議論しましょう。最終的な結論としては、学生はひとり 500 円を出して、それ以外を VLBI 懇談会でサポートする。

(松尾) 鹿児島大学の生協にバスの見積もりをお願いしている (78,000 円)。

(野原) 学生負担分を VLBI 懇談会負担分で分けて欲しい。

(小林) 参加者に 500 円負担。残額を天の川センターで出せればそれでいく。出せなければ VLBI 懇談会で負担する。慣例化してしまうと現地負担が増えるので、今年はこれで行くという方針。

(佐野) 事務局で負担がある場合は、できれば早めに決めてほしい。総会での 2026 年度予算申請や会計報告もあるので。

(小林) VLBI 懇談会は学生代表を 1 名募っている。学生から候補者を出してもらって、信任を取る。

(新沼) 今年度は学生 V 懇の代表は野原さんですか。

(野原) はい、今年度は私が学生代表です。

(佐野) 投票システムは岐阜大の村瀬さんにかなり準備いただいた、あとは今日決まった機関幹事の名前を入れるだけになっている。学生幹事の信任投票もあるので、できるだけ早めに決まると嬉しい。

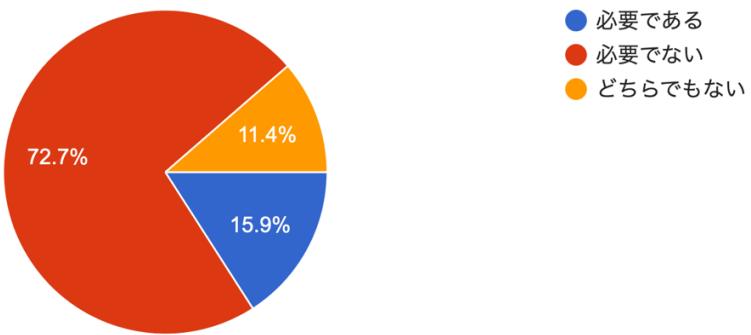
(小林) 学生幹事については総会での信任でも良いかもしれません。選挙の時の案内に、役員会としてその方針になった旨を記載しておく。

(野原) V 懇まで早めに決めます。

[3] シンポジウム紙版集録についての投票結果 (佐野)

10 月 20 日(月)正午締め切りで、シンポジウム紙版集録の継続についての投票を実施した。投票開始時点での会員数 141 名のうち、投票があったのは 44 名のみ。結果は、印刷版の継続が必要でないと答えた方が 7 割を超えており (32 人)、必要と回答された方は 1 割 5 分程度 (7 名) に留まった。

VLBI懇談会シンポジウムの印刷版の継続は
44 件の回答



(小林) 会員のうち 100 名ほどは投票をしていないので、全体としてはあまり興味がなかった。32 名はまあ知らない、7 名は必要と言っていることを踏まえて、まあ総会で決めればいいと思います。

(佐野) こういう意見がありました、どうですか、と総会で伝えると混乱をきたす気がしています。

(今井) 役員会で投票結果をもとに結論を出して、最終的に総会で役員会での合意に対して決定。決まったことに合意を取り付けるのが良いのではないか。

(佐野) 私もそう思います。

(米倉) まさに同じで、役員会からの提案というものを出して賛否を問うというやり方で良い。

(大勢) 賛成です。

(小林) 投票の結果を見ると、廃止で良いですね。それ以外の方向性はありますか。

(中川) コメントにも書いたのですが、もう私の意見は少数派なのですが、負担が大きいからやめるというのは日本中で聞かされていて、これもそのひとつだと思っています。実際、紙版集録をやめても負担は減らない。PDF の集録を作るところが一番大変。その意味で、廃止してもほとんど効果はないと思います。その点では、この話題の起点が間違っているような気がしてならない。

(今井) 中川さんの意見も反映された上で投票結果であることと、特定の個人の負担が多くなるのはいけないので(例えば集録の発送関連)、仕方がないのかもしれない。

(関戸) 私はめんどくさいからやめるというより、電子的に論文がすぐ取れる非常に便利な時代になっているので、PDF でいいんじゃないかと思って。DOI とかつけられなさいか。そうすれば引用文献にもできる。

(寺家) 私も関戸さんと前々から同じ意見です。

(小林) ちょっとその DOI つけるかどうかっていうのは話が少し広がってるんで。そ

ういう可能性もあるということを踏まえて、まああの役員会として、どう結論するかということ。

(米倉) 印刷版は作れないというのでよろしいんですけども、あの中川さんも今井さんもおっしゃったし、米倉も同じようなコメント書いたんですけど、あの決して負担は劇的には減らないです。そして負担が増える可能性があるのは、いまこの場にいる方々なので、最終的に役員会で結論を出せば良いと思います。

(佐野) 私もその方針で良いと思います。負担云々より PDF のみで十分という意見も多かった。

(小山) 会員から 2000 円を毎年徴収している。その大半が集録の紙版に使われている。会費の用途があの会員全員から同意が得られているものなのかどうかっていうところ。

(佐野) 会費の話は、また紙版廃止となってから、別途議論することになっています。

(新沼) 紙版廃止の件は、会費の使途についてのことも含まれていたと思います。私も小山さんがおっしゃった内容をもとに投票しました。

(小林) まずは総会で廃止についてお伝えし、その後 1 年くらいかけて会費の使い道やどうするかについて議論する。すぐに会費をやめるとはしない。

(佐野) まだ 2 年間ほどしか VLBI 懇談会にいないですが、やはり会員に対してアンケートや投票、もしくは意見聴取などをしたうえで、それを開示して決をとるというような流れにした方が良いと思いました。ですので、全面的に賛成です。

(小林) では、この方向でお願いします。

[4] 機関代表幹事、役員選挙、次期事務局について（敬称略）

各機関代表者から、2026–2027 年度機関代表について以下のように申請があった。会計監査員は前事務局長が実施することを確認した。また、会長 1 名と全国幹事 4 名は選挙、各機関代表は信任投票を行うことを確認した。

国立天文台(NAOJ)水沢: 岩田悠平

情報通信研究機構(NICT): 関戸衛

国土地理院: 石垣真史

JAXA/宇宙科学研究所: 土居明広

国立極地研究所: 青山雄一

岐阜大学: 村瀬建

山口大学: 新沼浩太郎

茨城大学: 米倉覚則

鹿児島大学: 中川亜紀治

大阪公立大学: 小川英夫

東北大学: 土屋史紀

福井工業大学: 宮本祐介

学生幹事: 野原祥吾
次期事務局長: 藤沢健太 (山口大学)
全国幹事: 4 名 (選挙)
会長: 1 名 (選挙)
会計監査委員: 佐野栄俊 (前事務局長)

会計監査員は、前年度の事務局長とすることを確認した。宮本さんについては、小林会長から連絡いただくことにした。当日欠席され、次年度機関代表がわからない方については、メールをお送りし両日中の返信を待つことに。返信がない場合は、昨年度の期間代表の方に依頼することで合意した。

[5] 各ワーキンググループの活動状況の報告

(小林) H.P. を作って集まった原稿を集めた。総会で報告する。2年経ったので、執筆者を見直す必要もある。将来計画はどうなっていますか。

(新沼) メンバーを改訂する必要がある。若手を取り込む必要がある。若手にリードを。どのようにメンバーシップを決めるか考えましょうという話でした。

(小林) 総会の時に報告。それまでにメンバーが改定できるのであればそのように。あと教科書 (藤沢さんがリード) 今日は進捗がわからない。

[6] その他

(関戸) メーリングリストと H.P.について

在職中(定年 5 年)は大丈夫だが、これらについて考えなくては行けない。サーバレンタルや方法を考え始めなくては行けない。

(小林) 考えなくてはいけない。

(三澤) 宇電懇はさくらサーバ。天文台で契約しているのを使わせてもらっている。

(小林) そこに乗っかるというのもひとつの手か。あとは google など無料のもの。

(佐野) ワーキンググループ立ち上げて検討していくという形で良いでしょうか。

(小林) 総会ではなく役員会で。来年度の役員会で議論。そのタイムラインで良いでしょうか。

(関戸) 良いと思います。

5. 報告事項

選挙のタイムラインを確認。今週中くらい。今月末くらいを締め切り。

以上